

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	FEALAC環境ビジネス・ハイレベル会合開催に係る経費		担当部局庁	中南米局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	中米カリブ課		課長 野口 泰		
会計区分	一般会計		施策名	I-3 中南米地域				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2号		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2010年1月東京で開催された第4回アジア中南米協力フォーラム(FEALAC)外相会合で外務大臣より発表したFEALACグリーンイニシアティブ(FROGイニシアティブ)の具体化の一つとして、環境ビジネス・ハイレベル会合を開催し、FEALACにおける同分野での協力の可能性等について議論し、また、知見の共有を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	環境ビジネスに関するハイレベルの政策担当者を東京に招待し、同分野の国際機関等の有識者も交え、会合(次官級を想定)を開催し、環境ビジネスの今後の可能性、FEALACにおける協力の可能性を議論する。また、日本の環境ビジネスサイトを訪問し、我が国の取組を紹介するとともに、経験の共有を図る。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	-	-	-	9	8	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	-	-	-	9	8	
	執行額	-	-	-				
	執行率(%)	-	-	-				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	<成果目標>FEALACの枠組みにおいてアジア中南米間の協力を日本が貢献するとともに、環境ビジネス分野における日本の取り組みを紹介し、FEALACの場における環境ビジネスに関する日本のプレゼンスを高める。 <成果実績>本会合未実施。FEALAC加盟国から可能な限り多くの国を招へい予定。		成果実績 (招へい国)	被招待国数	—	—	—	6
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	会合の開催。 (H22年度1月に行われた第4回外相会合で開催を発表し、3月に準備会合を実施。今後本会合を実施予定。)		活動実績 (当初見込み)		—	—	—	— (1)
単位当たりコスト	9百万円		算出根拠	平成23年度において事業全体に要する経費(9百万円)/平成23年度の実施予定回数(1)				
平成23年度 (単位:千円)予算内訳	費目		23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	招へい費		4,847	5,236				
	会議費・借料等		3,229	2,020				
	謝礼		471	387				
計		8,547	7,643					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・本事業は、2010年1月に開催した、第4回FEALAC外相会合において、我が国が本会合を開催することを提案しており、本年度の実施が見込まれる。これにより、アジア中南米間の協力で日本が貢献するというのが目的であり、定量的に成果を評価することが難しい、 ・費用面では、会場費を削るなど必要最小限の予算で会合を開催できるよう準備を進めている。		
予算監視・効率化チームの所見			
	事業について精査の結果、一部事業の縮小		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	日墨戦略的グローバル・パートナーシップ推進事業に係る経費		担当部局庁	中南米局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	中米カリブ課		課長 野口 泰		
会計区分	一般会計		施策名	I-3 中南米地域				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2号		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	平成22年2月、カルデロン・メキシコ大統領訪日時(公式実務賓客)に、日墨首脳間で発表された「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ行動計画」の内容を着実に実施に移していく。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	メキシコから日墨交流計画(現日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画)の経験者である有識者を東京に招き、21世紀の日墨グローバル・パートナーシップを考える有識者会議を開催し、右会議の結果を纏めた提言を出してもらう。右提言を両国の戦略的グローバル・パートナーシップの強化、21世紀の両国関係のありうべき姿を検討するにあたっての有益なインプットとして役立てる。また、同有識者会議のパネリスト他、多様な分野で活躍する日墨の有識者が一堂に会するレセプションを開催し、グローバルパートナーとしての両国の人的交流の裾野の拡大を図る。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	5	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	5	-	
	執行額	-	-	-	-	-		
	執行率(%)	-	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	<成果目標> 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画を通じた、両国の人的交流の裾野・ネットワークの強化・拡大。 <成果実績> 進出日系企業数		成果実績	社	-	-	-	450
			達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	21世紀の日墨グローバル・パートナーシップを考える有識者会議の開催。		活動実績 (当初見込み)	単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
				会議参加人数(人)	-	-	-	-
単位当たりコスト	5百万円		算出根拠	平成23年度において事業全体に要する経費(5百万円)/平成23年度の会議回数(1)				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	謝礼	593	-					
	会議費	2,448	-					
	招へい費	1,966	-					
計	5,007	-						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	平成22年2月に日墨首脳間で発表された「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ行動計画」の内容を着実に推進していく観点から、多様な分野で活躍する日墨の有識者が参加する会議を開催し、その成果として、21世紀の日墨グローバル・パートナーシップについて提言を得ることは、両国の人的交流の関係の強化・拡大に資するものであり、同趣旨に鑑み国が主導で行うべき事業である。		
予算監視・効率化チームの所見			
		廃止	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	日・中米経済交流促進事業に係る経費	担当部局庁	中南米局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度	担当課室	中米カリブ課	課長 野口 泰				
会計区分	一般会計	施策名	I-3 中南米地域					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2号	関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2005年の日・中米首脳会合において、日・中米間の経済活性化を図っていくことが合意。その具体的フォローアップとして2010年1月の日・中米外相会合にて2010年日・中米経済交流促進ワーキングチームを設立。同ワーキングチームによる作業成果を踏まえ経済活性化に向けた具体的施策の検討につなげる。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	本事業は、上記日・中米経済交流促進のための施策提言を含む作業成果について、日、中米双方でのセミナー開催を通じ、日、中米の政府及び企業関係者間で共有するとともに、その施策提言の具体化を検討する等のフォローアップを行う。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	-	-	-	5	2	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	5	2	
	執行額		-	-	-	-	-	
	執行率(%)		-	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)	
	＜成果目標＞日・中米経済交流の促進。中米諸国との間で会合を開催し、意見交換を行い、提言をまとめる。		成果実績	提言の数	—	—	—	1
	＜成果実績＞日・中米経済交流促進ワーキングチームによる提言を踏まえた各国の施策検討状況のフォロー及び経験の共有。		達成度	%	—	—	—	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	会議ないしはセミナーの開催。		活動実績 (当初見込み)	会議開催回数	—	—	—	—
単位当たりコスト	5百万円		算出根拠	平成23年度において事業全体に要する経費(5百万円)/平成23年度のセミナー回数(1)				
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	招へい費	1,548	-	23年度は日本開催のための経費に対し、24年度はフォローアップのための経費であるため				
	謝礼	1,388	-					
	会議費・借料等	970	-					
	旅費	902	1,957					
	計	4,808	1,957					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	-	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	-	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	-	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	-	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・日・中米経済交流促進のための施策提言を含む作業成果を中米各国で共有することが目的であるが、右施策提言が完成に至っていないため、会合は実施できていない。 ・費用面では、中米開催を前提としているため、必要経費は旅費のみとなっており、必要最小限の予算で対応できる予定。		
予算監視・効率化チームの所見			
	事業について精査の結果、一部事業の縮小		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート（外務省）

事業名	パッケージ型インフラ導入に関するセミナー	担当部局庁	中南米局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度	担当課室	南米課	課長 星野芳隆				
会計区分	一般会計	施策名	I－3 中南米地域					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第8号	関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	政府が重要施策に位置づける経済外交及び海外インフラ輸出促進を一層効果的なものとするべく、ブラジルの大型案件である高速鉄道における関係者の経験を集約し、他の海外インフラ案件における取り組みに資するような反省点などを抽出する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ブラジルにおいては、高速鉄道計画の入札公示が平成22年7月14日に行われ、今後平成23年7月に入札締切、早ければ年内にも受注業者(コンソーシアム)が決定する見込み。高速鉄道は、我が国パッケージ型インフラ輸出を推進する上で、重要な柱のひとつであり、ブラジルでの経験・教訓のパッケージ型インフラの海外輸出に最大限有効に活かし、より戦略的にインフラ輸出を実現していくため、厳選した官民の有識者等を集めたセミナーを開催するもの。(現在、入札締切りの最終的な確認が行われている段階。ブラジル政府の今後の手続き、落札者の動向、正否を左右した要因等を注意深く見守りながら、開催に適したタイミングを模索していく予定。)							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	—	—	—	3	—	
		補正予算	—	—	—	—	—	
		繰越し等	—	—	—	—	—	
		計	—	—	—	3	—	
	執行額		—	—	—		—	
	執行率(%)		—	—	—		—	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	<成果目標>ブラジル高速鉄道計画における経験・教訓を通じて、より戦略的なインフラ輸出を実現し、もって我が国が経済外交上重視しているパッケージ型インフラ導入における確度向上による海外インフラ案件を目指す。 <成果実績>平成23年度が初めての予算計上であり、実績はない。		成果実績 対伯投資額 (億ドル)	41	16.7	24.9		
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	パッケージ型インフラ導入に関するセミナーの開催(1回、於本邦)。		活動実績 (当初見込み)	百万	—	—	—	—
単位当たり コスト	3百万円		算出根拠	平成23年度において事業全体に要する経費(3百万円)/平成23年度のセミナー予定回数(1)				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	謝礼	436	—					
	旅費	1,287	—					
	会議費・借料等	1,474	—					
	計	3,197	—					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	平成23年度予算の過不足無い実施に向けて調整中		
予算監視・効率化チームの所見			
		廃止	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					